

R3 成果と課題

第1学期

第1学年部 1学期の成果と課題

- ① 「授業に主体的に取り組んでいる」の項目で「当てはまる」を55%に設定したが、7月の意識調査では48.2%と、見積もりを下回った。授業が難しくなり、なかなか教師の期待に応えられない生徒が出てきたためであろう。
- ただ、実質的には3月から比べると、主体的に取り組んでいる生徒が12%も増加している。
- また、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えている生徒の割合は3月では88%であったが、7月では96%と増加した。
- 教師サイドのたゆまない努力の成果である。登米市学習スタンダードがかなり浸透していると推察できる。
- ② 「学校が楽しい」と回答している生徒については、教師の見積もりは63%だったが、56.4%と下回った。ただ、この項目でも3月よりも微増している。さらに「あてはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒は3月は90%だったが、7月では93%と増加した。

この1年生すばらしいところは、不登校ゼロを維持しているところである。小学校で不登校だった生徒も 頑張っ て登校している。学年主任を中心に1学年スタッフがー丸となって「行きたくなる学校づくり事業」に邁進している成果である。

第2学年部 1学期の成果と課題

- ① 「授業に主体的に取り組んでいる」の項目で「当てはまる」を40%に設定したが、7月の意識調査では35%と、見積もりを下回った。この学年は3月の時点で「あてはまる」と答えた生徒が37.6%と1年生や3年生と比べると低い傾向にあった。
- 7月の調査でも3月から比べると、主体的に取り組んでいる生徒が2%減少している。
- 「授業がよくわかる」項目と「授業に主体的に取り組んでいる」項目の数値が類似している。「授業に主体的に取り組んでいない」と答えている生徒が1割いることは、授業改善を真剣に考えていく必要がある。
- ② 「学校が楽しい」と回答している生徒については、教師の見積もりは63%だったが、44.4%と大きく下回った。3月は55.6%だったのに対して、7月は44.4%と下降している。

2年生は欠席がちな生徒や新規不登校生徒も出現率からいくと高い。不安定な精神状態の中にいる生徒が多いと思われるが、一人ひとりに声をかけながら生徒に寄り添い、教師サイドの居場所づくりや学級経営を見直しながら、家庭とうまく連携していく必要があると思われる。2学年スタッフの情熱が生徒に上手く伝わるとすこしづつ不登校生徒の出現も抑えられると思われる。中だるみの難しい時期をうまくクリアさせたい。

第3学年部 1学期の成果と課題

- ① 「授業に主体的に取り組んでいる」の項目で「当てはまる」を45%に設定したが、7月の意識調査では38.4%と、見積もりを下回った。この学年は3月の時点で「あてはまる」と答えた生徒が41.3%と1年生や2年生と比べると高い傾向にあった。
- 7月の調査の中で、「ややあてはまる」が57.2%というところからみると、1・2年生よりもかなり高く、3月から比べると、約6%向上している。主体的に取り組んでいる生徒が95%に達している。教師の登米市学習スタンダード定着のための不断の努力の一端が読み取れる。
- 「授業がよくわかる」項目の数値が28.3%と低くなっている。課題点として挙げられているように、学習習慣が確立していない生徒の指導が不十分であると感じる生徒の改善を、一人一人にアドバイスしていく必要がある。
- ② 「学校が楽しい」と回答している生徒については、教師の見積もりは60%だったが、63%と上回った。成果に見られるように、p4cや学年レクなどで居場所づくり、絆づくりが功を奏しているようである。

3年生のスタッフはけやき教室に通う生徒や不登校生徒へアプローチをするために週1回のペースで行動を起こしている。別室登校する生徒も皆勤するようになっている。

また、4月当初、新しい学級になじめない生徒への家庭訪問や家庭との連携が実を結び、明るく通学するようになった生徒がいる。学級担任の努力に感謝している。

第2学期

第1学年部 2学期の成果と課題

- (1) 見積もりの数値が上下した理由について
 - ・テストや授業などで難しくなっている部分が多かったり、部活動での疲れや人間関係で考えることが多くなってきたことが考えられる。
- (2) 取り組んだ内容と数値の関連
 - 2学期は運動会や合唱コンクール、キャリアセミナーなどが多く、集中できる時間がすくなかったものの、新たな集団での取り組みがとても新鮮なことに感じたからだと思われる。
- (3) その他（記載する事項があれば）
 - 全体でリーダーを育て、学年として成長できるような関係を育んで行きたいと思う。

第2学年部 2学期の成果と課題

- (1) 見積もりの数値が上下した理由について
 - 学級内での居場所づくりということから、一人一役の仕事や役割を位置づけた。しかし、行事等については、コロナ禍の影響で予定していた行事を代案で実施することになったり、時間短縮で行ったりすることで自分の居場所を見出せず、7月からみるとア、イの数値が下回ったのではないかと考える。
- (2) 取り組んだ内容と数値の関連
 - 学習については、1学期からみると各教科の学習内容が難しくなっていることで、理解力の低下から「授業に主体的に取り組んでいるか」が「あてはまる」と答えている生徒は下回ったと考える。しかしながら、各学級の取組として、生徒が毎朝提出している自学ノートを担任が点検し、提出状況が悪い生徒には声掛けしたりアドバイスするなどの継続指導を行っていることで、授業の理解度が「ややあてはまる」と答えている生徒が13ポイントアップしたのではないかと考える。家庭学習については習慣化しているので、学習内容の充実を図るとともに今後も継続して取り組ませていきたい

第2学年部 2学期の成果と課題

- (1) 見積もりの数値が上下した理由について
 - ◎9月に立てた「授業に主体的に取り組んでいる」の「あてはまる」達成目標（見積もり）は、42%だったが、12月の最終達成度は52%だった。数値が上がった理由としては、クラス全体で学力向上していこうという雰囲気が高まったことが要因と考えられる。以前よりも教科の課題への取組や提出が確実で、ペアやグループで教え合う活動も十分効果的である。
- (2) 取り組んだ内容と数値の関連
 - ・課題提示する際に「学びを深めるキーワード」を示し学習に見通しを持たせた。
 - ・生徒が自分自身の考えを持ち、自己解決するための時間を設定することで、表現が苦手な生徒も意欲や自信を持って発言し、深い学びにつながった。
 - (例)「～について隣の人と意見交換してみよう」→全体の前で発言
 - ・授業の振り返りを自分の言葉で表現させ、「できた」という達成感を持たせた。
 - (例)「今日の学習で身についた力、勉強になったことは何ですか。」
 - ・教師が積極的に褒める場面を設定し、生徒に温かい言葉掛けを行った。
 - (例)机間支援しながらノートに丸を付け、褒める。
 - ・担任が毎日、自学ノートを提出させ励ましながらコメントした。また、学習の内容、量とも優れていた生徒には「本日のExcellent」としてクラスで紹介した。
 - ・テスト前には「朝勉強」を行ったり、放課後の「自学タイム」を設定したりした。
 - ・学年の学習担当者が2週間に1回、「Go for the Goal」という便りを発行し、入試のコツや普段の勉強法について生徒たちに分かりやすく情報提供している。
- (3) その他（記載する事項があれば）
 - ・7月には「みんなで何かをするのは楽しい」に「あてはまる」と回答した生徒が63%だったが、12月には69%だった。10月には運動会や合唱コンクール、修学旅行が行われたが、クラスや学年で団結し、自分たちで創り上げたという実感のもと、どの行事も感動的で思い出深いものになったことが大きな要因であろう。クラスの絆も深まり、進路達成に向けて心機一転頑張ろうというよい足がかりとなった。

まとめ（第3学期の成果と課題を含めて）

（登米市 行きたくなる学校づくり推進事業 実績報告

学 校 名	登米市立中田中学校
学 年	全学年

（1）意識調査の結果

① 1年目 4月意識調査の結果（単位 人）

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	63.3% (241)	31.0% (118)	3.9% (15)	1.8% (7)
イ みんなで何かをするのは楽しい	70.9% (270)	26.0% (99)	2.1% (8)	1.0% (4)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	41.7% (158)	48.0% (182)	8.7% (33)	1.6% (6)
エ 授業がよくわかる	34.8% (132)	55.1% (209)	7.9% (30)	2.1% (8)

② 7月意識調査の結果（単位 人）

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	58.5% (226)	36.0% (139)	3.6% (14)	1.8% (7)
イ みんなで何かをするのは楽しい	71.2% (275)	24.4% (94)	3.9% (15)	0.5% (2)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	52.6% (203)	41.7% (161)	5.2% (20)	0.5% (2)
エ 授業がよくわかる	39.9% (154)	51.3% (198)	7.8% (30)	1.0% (4)

③ 12月意識調査の結果（単位 人）

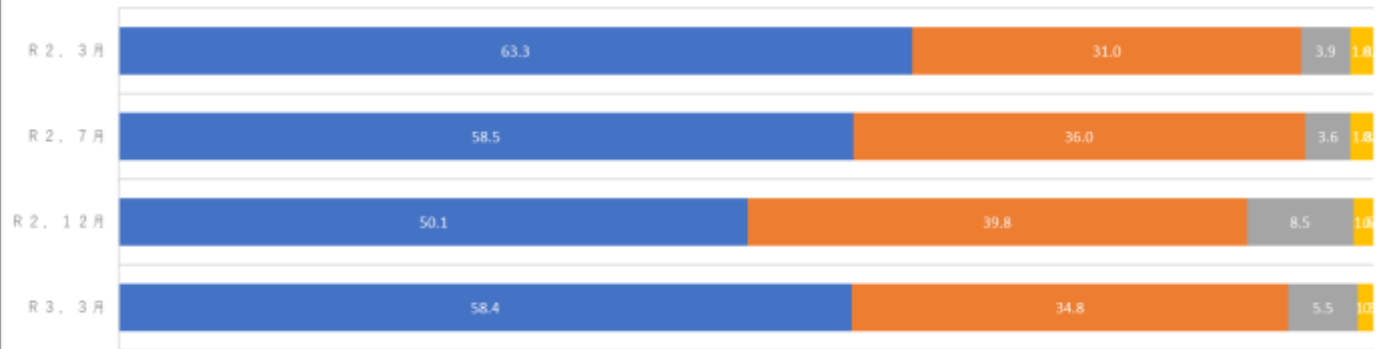
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	50.1% (194)	39.8% (154)	8.5% (33)	1.6% (6)
イ みんなで何かをするのは楽しい	65.1% (252)	29.5% (114)	4.7% (18)	0.8% (3)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	37.7% (146)	50.9% (197)	10.6% (41)	0.8% (3)
エ 授業がよくわかる	27.9% (108)	56.6% (219)	13.7% (53)	1.8% (7)

④ 2月意識調査の結果（単位 人）

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	58.4% (233)	34.8% (139)	5.5% (22)	1.3% (5)
イ みんなで何かをするのは楽しい	68.2% (272)	27.1% (108)	4.0% (16)	0.8% (3)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	43.4% (173)	49.4% (197)	7.0% (28)	0.3% (1)
エ 授業がよくわかる	37.1% (148)	54.1% (216)	7.5% (30)	1.3% (5)

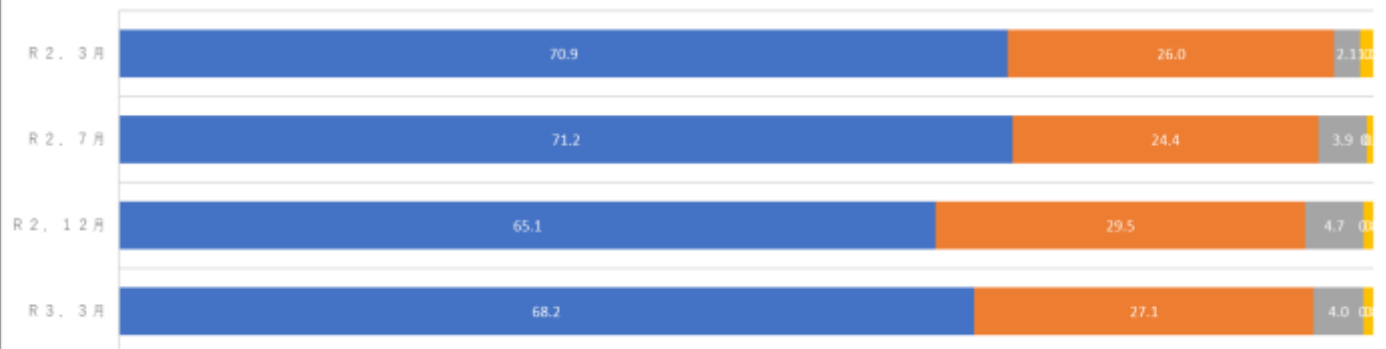
ア 学校が楽しい

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない



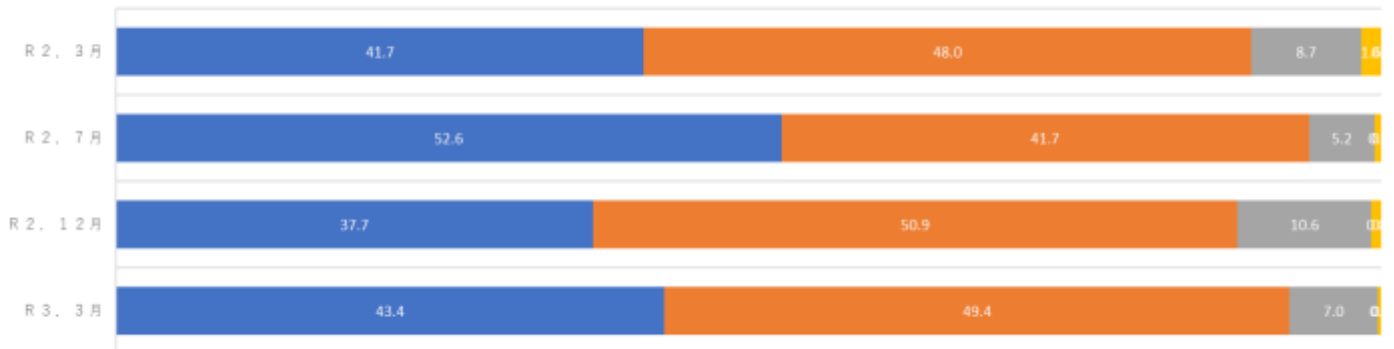
イ みんなで何かをするのは楽しい

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない



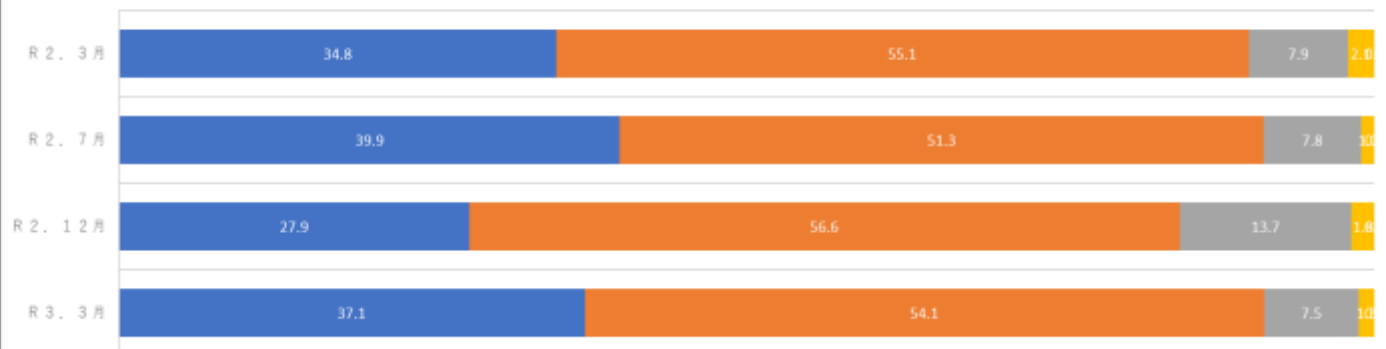
ウ 授業に主体的に取り組んでいる

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない



エ 授業がよくわかる

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない



② 2年目 7月意識調査の結果 (単位 人)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	52.5% (213)	41.6% (169)	4.9% (20)	1.0% (4)
イ みんなで何かをするのは楽しい	65.8% (267)	29.6% (120)	3.9% (16)	0.7% (3)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	42.1% (171)	52.0% (211)	5.7% (23)	0.2% (1)
エ 授業がよくわかる	40.4% (164)	51.2% (208)	7.9% (32)	0.5% (2)

③ 2年目 12月意識調査の結果 (単位 人)

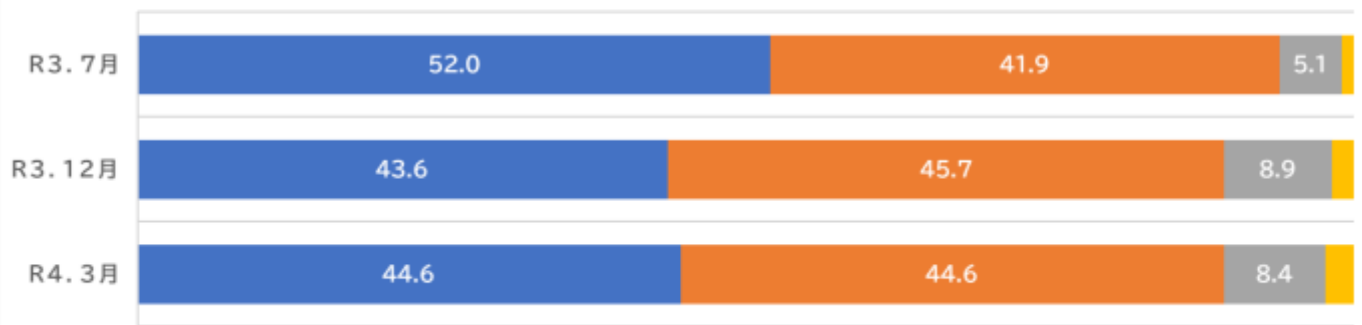
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	44.3% (175)	45.3% (179)	8.6% (34)	1.8% (7)
イ みんなで何かをするのは楽しい	65.6% (259)	31.1% (123)	1.8% (7)	1.5% (6)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	42.5% (168)	51.1% (202)	5.3% (21)	1.0% (4)
エ 授業がよくわかる	32.4% (128)	57.2% (226)	9.1% (36)	1.3% (5)

④ 2年目 2月意識調査の結果 (単位 人)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい	44.6% (171)	44.6% (171)	8.4% (32)	2.3% (9)
イ みんなで何かをするのは楽しい	63.2% (242)	31.3% (120)	3.7% (14)	1.8% (7)
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	41.8% (160)	44.9% (191)	7.8% (30)	0.5% (2)
エ 授業がよくわかる	32.4% (124)	57.2% (219)	8.6% (33)	1.8% (7)

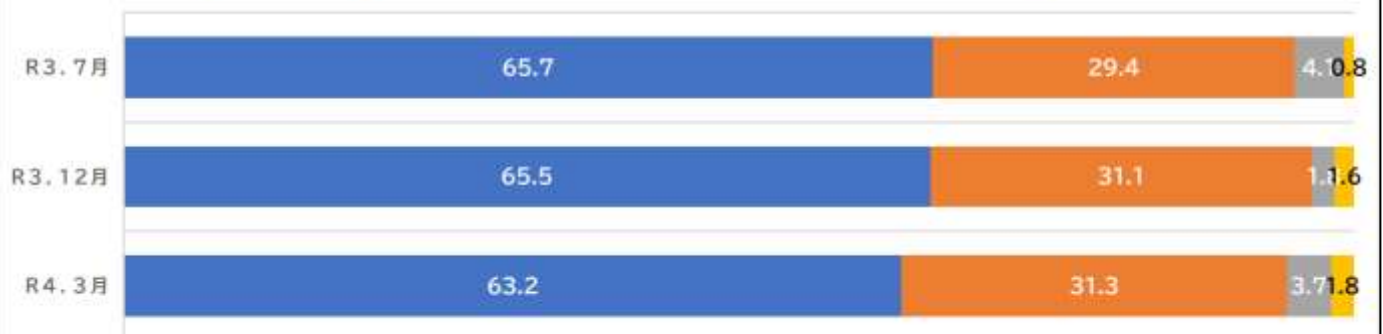
ア 学校は楽しいですか

■当てはまる ■どちらかと言えば当てはまる ■どちらかと言えば当てはまらない ■当てはまらない



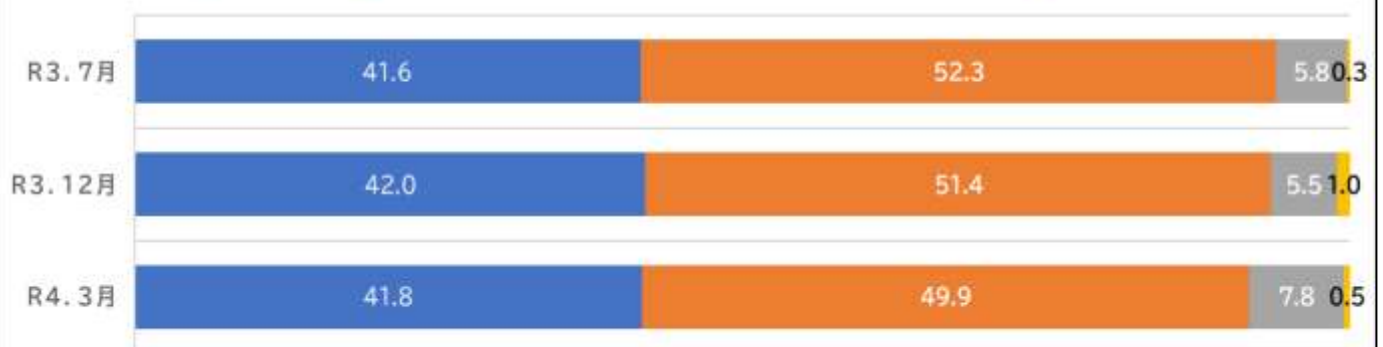
イ みんなで何かをするのが楽しい

■当てはまる ■どちらかと言えば当てはまる ■どちらかと言えば当てはまらない ■当てはまらない



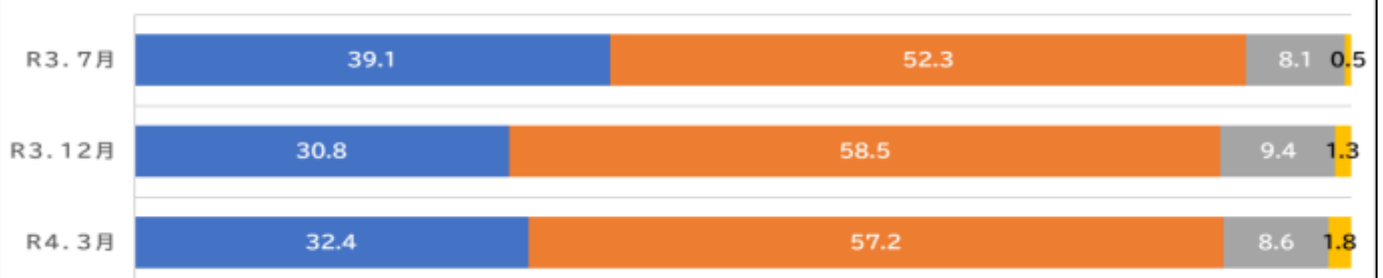
ウ 授業に主体的に取り組んでいる

■当てはまる ■どちらかと言えば当てはまる ■どちらかと言えば当てはまらない ■当てはまらない



エ 授業がよくわかる

■当てはまる ■どちらかと言えば当てはまる ■どちらかと言えば当てはまらない ■当てはまらない



(3)2年間に取り組んだ内容

◇ 学級作りについて

〈居場所づくり〉

- ・P4Cの活用で、学活、道徳など意見を言っても否定されない、安心な雰囲気づくりをした。
- ・一人ひとりに役割を与え、係や当番の仕事に責任をもって取り組ませて、成就感と自己有用感を育んだ。
- ・毎日提出する自主学習ノートや週末課題に、担任が一言コメント（アドバイスや褒める言葉掛け）を記入し返却することで、生徒一人一人のやる気（意欲）を喚起させるよう努めた。
- ・年度初めはクラス作りを意識して、帰りの会や学活、道徳などでペアやグループ活動の機会を多く設け、生徒同士の相互理解に努めさせた。
- ・担任が休み時間や昼休みなど、教室や廊下で生徒と会話し、時には相談に乗り、積極的生徒指導を行った。
- ・学級全体と生徒一人ひとりの適応感をアセスで調査し、その時に適切な指導が行われるように配慮した。

※ 不登校生徒への居場所づくり

- ・不登校生徒の机や椅子の整頓、配付されたプリント類などを忘れることのないように、周囲の生徒同士の声掛けと気配りに配慮した。
- ・休みがちな生徒が登校してきた際には、さりげなく学級内で意図的に声掛けをするなど、温かい雰囲気づくりを意識した。
- ・週に1回ケアハウスやけやき教室へ訪問し、生徒と面談を行った。職員の方とも情報交換を行ったことで共通意識が高まった。

〈絆づくり〉

- ・p4cを利用して「自分の考えを持ち、思いを伝え、友達の話は真剣に聞く」というルールを徹底し、生徒同士が安心して自分の考えを他者に伝えたり、相手の意見を受け止めることのできる雰囲気づくりをした。
- ・学級委員を中心としたリーダーが企画運営する学年集会を開催したり、クラス対抗のビブリオバトルやレク活動などを行った。特に生徒達自身の自主的な動きと「気づき、判断させ、行動する」という意識を重視した。
- ・帰りの会の中で、生徒同士が今日の目標の反省と頑張った人について紹介することで、お互いの良さを認め合える雰囲気づくりを大切にしたい。
- ・運動会、合唱コンクールなど色々な学校行事は、極力生徒が企画し、仕事を見つけ、責任を持ってやり遂げる中で、友達同士サポートし合う絆を育む雰囲気づくりを強化した。

※ 不登校生徒との絆づくり

- ・教室や廊下経営では掲示物作成を生徒の手で行い、不登校生徒についても可能な限り記入、提出させ、学級の一員としての所属感を持たせた。

◇ 授業作りについて

焦点化した項目が「授業に主体的に取り組んでいる」ことから、校内研究のテーマを「主体的に考え、学びを深める生徒の育成～自己有用感を育む指導と振り返りの工夫を通して～」と設定した。研究の視点を「生徒のよさを認める場面の設定」と据えて研究を推進してきた。

- ・生徒の意見を取り上げ、全体で共有する場面では、生徒を「教師が積極的に褒め続け」「生徒に温かい言葉掛けを行う」ことができた。
- ・ペアやグループでの活動を取り入れたことで、「生徒がお互いに認め合える場面」が設定でき、更に話し合いを通して、一人ひとりが自分の考えを持ち、積極的に発表し、主体的に学習に取り組んだ結果、学びを深めることができた。
- ・不登校生徒や学力不振な生徒一人一人に対しては、個々に応じた指導と支援を意識して取り組んだ。
- ・他の生徒の発言を真剣に聞き、更に自分の考えを深められたことで、成就感や自己有用感も少しずつ育まれてきている。

今後、さらに研究を推進しながら授業の中で、生徒同士の居場所づくり、絆づくりも視野に入れて、主体的に学ぶ共同体を構築していきたい。

課題としては、生徒が自己の取組を振り返る場面を設定できなかった授業があったことが挙げられる。

(生徒の変容)

- ・ 前述したように、意見を全体で共有する場面では、一度褒められて自信をつけた生徒は積極的に発表を行うようになった。
- ・ ペアやグループでの活動においても、相手やグループ内の人たちから反応があったり、コメントをもらったことで、他の生徒の学びにつながったことが分かり、ある種の自己有用感がもてるようになった。
- ・ 教科によっては、先生に質問することに抵抗がある生徒でも、生徒によるミニティーチャーの活躍により、積極的に学び合い、分からない問題にも挑戦してみようとする姿が見られた。これは、生徒同士の絆づくりにも大いに役立つと思われる。

【学習・活動での声】

- 英語の授業では個々に数文、英作文したものを生徒の目の前で添削・評価し、Aの評価を得た生徒は「やったー」と言葉を発して、次のS評価を目指して取り組んでいたことが印象的であった。
- 道徳の授業では、p4cの活動の中で自分の意見を積極的に発表できるようになった生徒が増えた。
- ビブリオバトルの感想に、「どの発表者も素晴らしかった。紹介された本を読みたくなった。次は自分も代表で出場したい。」というコメントが見られた。各クラスとも担任が共通理解を図りながら、道徳でp4cを実践したり、帰りの会で積極的にグループの意見交換を行ったりしていることが功を奏したと思う。
- 学年集会で作文発表を行ったときは、「家族への感謝の気持ちを持つことができた。」という感想も聞かれた。学級内だけでなくクラスの壁を取り払った学年の交流ができた。

(5)成果

- 7月から2月の結果をみると、「授業に主体的に取り組んでいる」の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が約90%の横ばい状態となっている。
学習面での相関関係にある「授業がよくわかる」も「当てはまる」が7月から7%下降しているものの「どちらかといえば当てはまる」が5%上昇して、2つ合わせると89%になっている。
1学期から比べると授業内容も難しくなっているのに、この数値になっていることは評価できる。
ただ、1割の生徒が満足できる結果になっていないところは今後改善していかなければならないところである。
タブレットが導入され11月頃から各教科で本格的に利用し始めたので、生徒の興味・関心が湧き、このような結果になったことも一因と考えられる。
- 「みんなで何かをするのは楽しいか」という問いに対し、12月は96.6%の生徒が「あてはまる・ややあてはまる」と答えているのに対し、大きな行事がなかった2月は94.5%となり、微々たる変化ではあるが下降した。3学期は行事による絆づくりが出来ない分、学級活動、道徳の導入で行っているp4cの場を増やすことで、生徒同士の協力や仲間同士の関わりを大切にする生徒を増加させることができるのではないかと考えている。
- 「学校が楽しい」という問いに対して、「あてはまる」が12月は43.6%であったが、3月は44.6%となり、微増した。コロナ禍で、部活動が休止になったり、全体での教育活動が制限されたりする中で微増した。
本来、「学校が楽しい」と感じれば、たとえ多少学力的に問題があっても不登校を未然に防ぐことができるのではないだろうか。この項目を更に深めていく必要がある。

(6)課題

今回2年間の指定を受けて、全職員が「今、我々教師が、教師でなければできないこと」を日々工夫・実践して、一人でも多くの子ども達が安心して学校に登校し、「仲間と集うことが楽しい」学校づくりを目指して、普段着の研究を行ってきた。特に留意したことは

- ①集団指導による新規不登校の抑制をすること
- ②全ての児童生徒からのメッセージ（意識調査）をもとに教師全体で取組を点検し、PDCAサイクルの手法を用いた魅力ある（行きたくなる）学校づくりをしながら新規不登校を抑制すること
- ③教育課程全般で、居場所づくりと絆づくりを意識しながら新規不登校の抑制をすること

こうした取組を行ってきたが、意識調査の結果だけでは分からない面も多々あるのが正直なところである。
新規不登校を出さない指導（不登校対策）で一番ネックとなったことについて担任に尋ねると、圧倒的に多かったのが「家庭、保護者との連携」であった。学校の手が届かないところで、多くの教師が苦悩している。
教師がどんなに努力しても、家庭の問題で座礁してしまうとお手上げ状態になってしまう。これはどの学校でも同様であり、無力感に襲われそうになる。

そのような壁が立ちちはだかった時は、もう一度原点に戻って下のような視点で、実践と向かい合わなければならないと感じている。

- 学級内では、いつも担任に近づいて来る生徒だけに目を向けるのではなく、むしろそれ以外の生徒との関わりを大切にしていくこと。
- 学力不振の生徒へのアドバイスや学習支援を工夫していくこと。
- 教師の授業力向上により、生徒の『分かった』『できた』を増やしていくこと。
- 今後も保護者との連携をとり、生徒の気持ちに寄り添った指導に心掛け、特に不登校生徒の支援を徹底していく。
- 生徒との関係性・絆・パイプを太くしていくことで、我々教師が気づかないことを教えてくれる生徒を増やしていくこと。

最後に中学校2年生から不登校になってしまい、けやき教室に通級したN生徒が現在、単位制高校に進学した、その生徒がけやき教室を訪ねた時、こんなことを話してくれたという。

先生、今学校に行くことが楽しいんです。勉強は昔と同じであまり分かりません。でも、友達が出来て、その友達と会えることがすごくうれしい。。。。。

友達との関係がなくなるとまた不登校に陥る可能性もある。しかし今現在、全欠に近かったNが「学校が楽しい」と感じている。ここに新規不登校をつくらない、あるいは抜け出すヒントを教えてもらった気がした。何をおいても、やはり人と人の関わりが十分に保てて、絆づくりがしっかりできる学校こそ、生徒の居場所を作るのだということを痛感している。